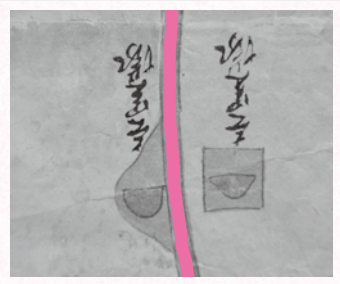


# 三宅・阿保の一里塚跡

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)

## 松原歴史ウォーク

vol.243



▲「河州丹北郡三宅村絵図」に描かれた一里塚 上が北、左が三宅側、右が阿保側。



▲中高野街道一里塚跡顕彰板 (阿保5丁目) この奥に一里塚があった。



▲中高野街道一里塚跡 北から南をのぞむ。右(西)が三宅中2丁目、左(東)が阿保5丁目。

### 中高野街道の平野から一里「一里塚跡」顕彰板の設置

平野(大阪市平野区)を起点として、高野山(和歌山県)へ向かう中高野街道は、江戸時代以降、さかんに利用されました。市域では、三宅・阿保・上田・新堂・岡・丹南を南北に貫いています。

そして、江戸時代には平野の大念佛寺(融通念佛宗)付近からおおよそ一里(約四キロ)の地点に、街道に向かいあうように、一里塚が設けられていました。その場所は、丹北郡三宅村と阿保村の境界にあたります。中高野街道をはさんで、現在の三宅中二丁目と阿保五丁目にまたがっています。西側が三宅、東側が阿保に属します。府道大堀一堺線が街道と交差する「阿保5」の交差点名が表示されているすぐ北側です。

一里塚とは、街道の両側に一里ごとに設けられた塚をいいます。多くは小高い土盛りの山をきづき、その上にえのきが植えられ、旅人などの目じるしにしました。江戸時代初期に東海道や北陸道などの主要街道に整備され、以後、それぞれの街道にも設けられていきました。大阪府内でも、富田林市錦織を通る東高野街道に一里塚が現存し、府の指定文化財になっています。

ところで、中高野街道一里塚は、

今では現存していません。三宅側は駐車場になり、阿保側は住宅地になっています。ただ、三宅一里塚は早くに削平されたようですが、今も一里山の小字名が残っています。一方、阿保一里塚は昭和六十年代まで、民家の庭先になごりが見られ、小さな鳥居や祠が祀られていました。

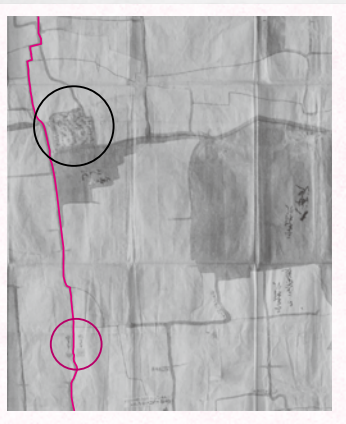
江戸時代中頃の享保五年(一七二〇)の「河州丹北郡三宅村絵図」(三宅中・妻屋宏氏蔵)を見ると、当時の一里塚のようすが描かれています。上が北で、平野方面です。中高野街道は、平野から高野山方面では「高野山海道」とあり、平野方面へは「摂州大坂街道」と記されています。

絵図の赤い線が街道を示し、所蔵者である妻屋さんが宮司をつとめる屯倉神社が街道の東側に鎮座しています(〇印)。

道の南には、今では三宅町土地改良区などに埋め立てられましたが、馬場池が見られます。その東側には水上ゴルフ場利用されている大海池も水をたたえています。三宅村の家々は、屯倉神社の西北に広がっています。

屯倉神社から街道を南に四〇〇メートルほど行くと、両側に向かいあうように小山が描かれています。これが一里塚です(〇印)。絵図上にも、それぞれ「壹里塚」と記されています。文字は逆転しています。

一里塚の部分拡大してみましょ



▲「河州丹北郡三宅村絵図」(享保5年)

う。西の三宅側は街道に面して、円錐形の山状を描き、ほぼ中央に土まんじゅう型を加えています。土盛り状を土台として二段重ねを想像させます。濃い緑色で着色しており、樹木をイメージしています。これに対し、東の阿保側は街道に面さず、少し離れて正方形の土壇を描き、重ねるようにやはり土まんじゅう型が見られます。同じく緑色で区分けしています。

昭和四十年代後半、市教育委員会などが、阿保側に「一里塚跡」の標柱を建てました。私もその設置に関わり、街道から少し離れた庭先に先の鳥居や祠があり、絵図の信ぴょう性を再認識しました。

標柱はその後、朽ちましたが、今夏、観光ボランティアの「まつばらまちの案内人」のみなさんは、数十年前ぶりに「中高野街道」「一里塚跡」の案内板をご許可をいただき、同所に設置しました。顕彰板として市内の観光や歴史ウォークに役立つものと確信しています。